



安全対策で複雑化しがちな出力制御を、分散配置でシンプルに IO-Linkデジタル出力モジュール「AL2637」



高電流アクチュエータの安全制御に伴う、配線・制御盤の負担を軽減

ifm efector株式会社（本社：東京都港区、代表取締役 岩室 一志）は、安全性と使いやすさを両立したIO-Linkデジタル出力モジュール「AL2637」を2026年5月に発売いたします。製造現場では、自動化の進展に伴い、バルブやソレノイド、接触器などの高電流アクチュエータを多数制御する設備が増えています。これらの装置は、人が近づく可能性のある環境で使用されることも多く、安全扉の開放や非常停止時に確実に出力を遮断できることが強く求められています。一方で、安全回路を含む出力を制御盤内に集約すると、配線の増加や制御盤の大型化、改造時の工数増大など、現場の負担が大きくなることも課題です。ifmのIO-Link出力モジュール「AL2637」は、こうした安全性の確保と設備構成の複雑化という相反する要求に応える、分散制御向けソリューションです。高電流アクチュエータのON/OFF制御を設備現場に近い場所で行えるため、盤内集中型I/Oで課題になりがちだった配線量や負荷容量の問題を解消し、配線削減と制御の集約を同時に実現します。本モジュールは最大16点のデジタル出力を備え、出力回路は電気的に独立した2系統構成です。これにより、装置内でのゾーン分けや系統分離が容易になり、安全設計時の整理や説明もしやすくなります。さらに、1ポートあたり最大4A、モジュール全体で最大16Aに対応しており、高電流を要する負荷に対しても余裕をもった設計が可能です。安全面では、外部から入り込む電気的影響による誤通電といった理論的リスクを考慮した非干渉（ノンインタラクション）設計を採用しています。安全電源をOFFした際に確実なOFF状態を実現することで、PL d（Category 3）に対応した安全システムへの適用も可能です。ロボットセル周辺や装置近傍に分散設置することで、長距離配線の削減や保守作業の効率化にも寄与します。産業オートメーションをはじめ、自動車、医薬、化学、食品分野など幅広い用途で活用可能です。保護構造IP69Kに対応した「AL2537」もラインアップしており、洗浄工程や衛生環境への導入にも対応します。ifmは今後も、安全性と使いやすさ、コスト効率のバランスを求める現場の課題解決を支えていきます。

◆主な特長◆

- 独立した回路でデジタル出力16点を接続
- 各ポート最大4A、トータル16Aの高負荷出力
- 各ポート2点のデジタル出力制御が可能
- PL d(カテゴリ3)まで相互作用なし

◆製品名・価格◆

- 製品名：安全規格対応IO-Link出力モジュール「AL2637」、 「AL2537」
- 標準価格：51,800円（税別）
- 販売目標：年間1,000個

* 本製品の詳細は、下記URLよりご覧いただけます (AL2637,AL2537)

https://bit.ly/AL2637_PL_202604

ifm efector株式会社：会社概要

弊社は1969年にドイツで誕生以来"ifm-Close to you"を企業理念とし、センサのスペシャリストとしてお客様に寄り添っています。今日では従業員8000名を超える大企業に成長し、幅広いセンサのラインナップに加え、IoTのカギとなるIO-Linkの先駆者としても世界的に広く認知されるメーカーとなり、多くのお客様にソリューションを提供させて頂いております。日本では、長い間エフェクター株式会社として活動しておりましたが、2016年にifm efector株式会社に社名変更し、より良い製品、サービスの提供に努めています。

〒105-7104 東京都港区東新橋1-5-2汐留シティセンター4F Website:<https://www.ifm.com/jp>

本リリースに関するお問い合わせ先 /マーケティング部 (會田庸子 : yoko.aida@ifm.com)

製品に関するお問い合わせ先/ 営業部 : technical.jp@ifm.com